

議員6人が一般質問

佐藤 忠暉議員

復興ビジョンが示される前に

計画通り一歩ずつ前に

質問

3月11日午後2時46分、一瞬にして山田町の情景が一変した。気象庁は十数年前から、今後30年以内に宮城県沖地震が発生する可能性は99%と予測していた。ついにその日が来たかと思った。

今は、町の復興ビジョンが示される前に、できることは済ませておくことが必要だと思いいくつか問う。

①家屋床下のヘドロ除去、家と家との境界線下の細かいがれき撤去、側溝のヘドロや泥の排除等はいつ終わるか。

②くみ取り便所跡地の清掃と消毒は済んだか。

沼崎町長

①家屋床下のヘドロ除去については、自衛隊の行方不明者捜索に伴う作業およびボランティアの協力により完了している。

家と家との境界線下のがれき撤去については、現在建設機械で作業を主に進めている。

側溝のヘドロや泥の排除については、7月下旬までには完了したいと考えている。

②被災跡地の消毒については、自衛隊の献身的な防疫活動により実施され、清掃はこれから取り組む。

山崎 泰昌議員

災害復興について

町民の意見を取り入れて

質問

①10月まで基本方針を発表できないと受け止められ、実情に合わないスピードであるが、町民の理解を得られるか。

②庁内でまとめた案を町民に示し、たたき台とすべきと考える。国、県の動きとは一線を画してでも、計画を策定すべきでは。

③ライフライン確保のために早急に対応しなければならぬ案件を把握しているか。また、対応できるか。

④漁業を支えている水産加工業者、水産物販売店にも漁業者同様の支援が必要だと考えるが町の考えは。

沼崎町長

①5月末に基本方針を発表し、住民懇談会を開催して理解を求めているし、6月末をめどに復興ビジョンの策定を急いでいる。

②復興計画は国、県等関係機関の方針との整合性も考慮する必要がある。

③県に対し要望すべきところは要望しているし、応急復旧については、生活道路、電気、水道等はほぼ確保した。

④災害対応の融資制度に対し支援するとともに、国の災害対応補助事業に対し県と連携して支援する。

木下 志き子議員

防災教育について

避難訓練が生かされた

質問

①3月11日の大災害、各校の防災教育は生かされたか。

②災害によつて年間の授業日数、学校行事に支障を来していないか。

③学校、施設等に昼食が届けられているが、提供者と期間は。

岩船教育長

①各校の防災教育についてであるが、地震と津波の発生時、児童生徒は教員の確な指示に従い適切に行動したと各校から報告を受けた。普段の避難訓練が生かされたと捉えている。

②年間授業日数については多少の支障はあったが、各学校で工夫しながら年間計画を作成しているので大きな問題はないと考える。学校行事については学校によつて校庭等の利用状況が異なるが、計画されている行事は多少の縮小、延期があつても実施の方向で進める。

③昼食は災害救助法に基づき、県に対して関係課を通じて各学校からの希望数を報告し、弁当の配布をしている。期間は災害救助法で3カ月程度とされているが、実情を考え提供期間の延長をお願いしている。